令和 8 年 10 月 30 日

令和8年度 全国学力・学習状況調査『教科に関する調査』結果概要

和泉市立青葉はつが野小学校　校長 中越 信子

【保護者の皆様へ】

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、令和 8 年 4 月 23 日（木）に、6 年生を対象として「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

和泉市教育委員会は、保護者や地域の皆様方に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果及び調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校においても、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について公表いたします。

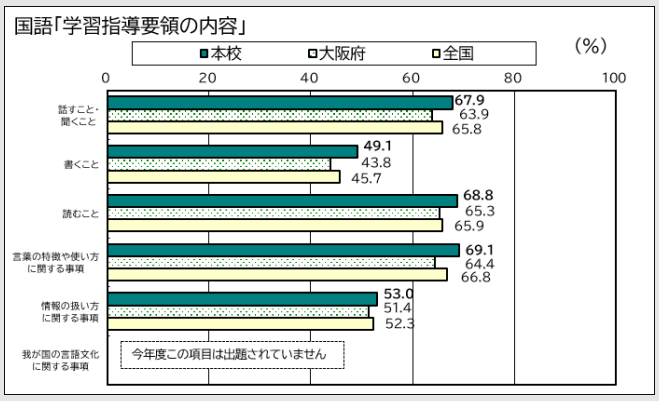
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、【『対話を通して自分も幸せ、みんなも幸せ』～みんなの幸せにつながるもの・こと・とき・ば・なかまを創り出す力を育む～】との学校教育目標のもと、思いやりのある子、勇気のある子、表現できる子を育むことをめざします。保護者の皆様には、今後とも本校教育活動へご理解ご協力をお願いいたします。

内容に関するご意見・ご感想がございましたら、学校までご連絡ください。

【学力状況調査にかかる全体的な結果概要】

学力状況調査において、国語は平均正答率 63%（全国 60.9%）、算数は 60%（全国 56.4%）で、いずれも全国を上回りました。また、国語・算数とも全領域において、全国平均を上回りました。結果を通して、これまで継続してきた取組みの成果を確認することができました。

国語



【結果・分析】

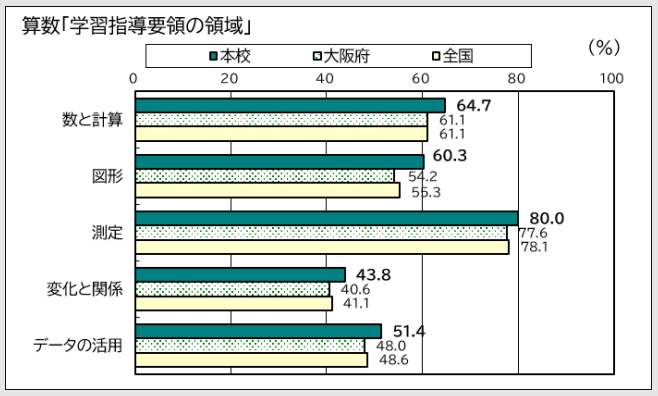
平均正答率は 63%で、全国（60.9%）を 2.1 ポイント上回りました。出題された領域すべてで全国を上回り、「話すこと・聞くこと」67.9%（全国比＋2.1）、「書くこと」49.1%（全国比＋3.4）「読むこと」68.8%（全国比 2.9）、などに特に成果が見られました。国語科の授業において、複数の情報を関係付けて自分の考えを形成し、根拠をもって表現する（書く・話す・発表する）言語活動の充実に向けた取組みの成果であると考えられます。

一方、「書くこと」は全国を上回ったものの、平均正答率は 49.1%にとどまっており、複数の情報を関係付けて自分の考えを形成し、根拠を明確にして書く力に課題が見られます。また、文の中で漢字を正しく使うことにも課題が見られました。

【今後の取組み】

全国平均は上回っているものの依然として「書くこと」に課題が見られます。課題解決に向け、言語活動の充実をさらに進めるとともに、単元のゴールに向かって、子どもたちが見通しを持ち、集めた情報を「比べる」「関係付ける」「吟味する」「考えを形成する」「相手や目的に応じて表現する」といった過程の充実を図ります。また、子どもたちの語彙力を育むために「ことばのいずみ（語彙カード）」の活用や暗唱・視写、読書活動の充実等に取り組みます。

算数



【結果・分析】

平均正答率は 60%で、全国（56.4%）を 3.6 ポイント上回りました。出題された領域すべてで全国を上回り、「測定」80.0%（全国比＋1.9）、「図形」60.3%（全国比＋5.0）などに特に成果が見られました。R7 から継続している四則計算・基礎問題の反復や、対話を通して試行錯誤し、課題解決に向かう授業づくりの充実の成果であると考えられます。

一方、全国平均を上回ったものの「変化と関係」は 43.8%、「データの活用」は 51.4%にとどまっており、数量やデータを読み取り、関係を整理して根拠を説明する力に課題が見られます。また、図形や数の概念理解にも課題が見られました。

【今後の取組み】

朝の学習の時間や家庭学習を活用し、四則計算や基礎的な問題に繰り返し取り組む機会を設け、基礎的な知識・技能の定着を図ります。併せて、具体物や図、式を用いて、数や図形の意味・関係を確かめる活動を取り入れます。また、数や図形の概念理解を深めるため、図や式、言葉を用いて自分の考えを整理し、話したり書いたりして説明する活動を取り入れます。さらに、表やグラフから数量の変化や関係を読み取り、根拠を示して説明する学習を進めます。

令和 8 年 10 月 30 日

令和8年度 全国学力・学習状況調査『**児童質問調査**』結果概要

和泉市立青葉はつが野小学校　校長 中越 信子

【保護者の皆様へ】

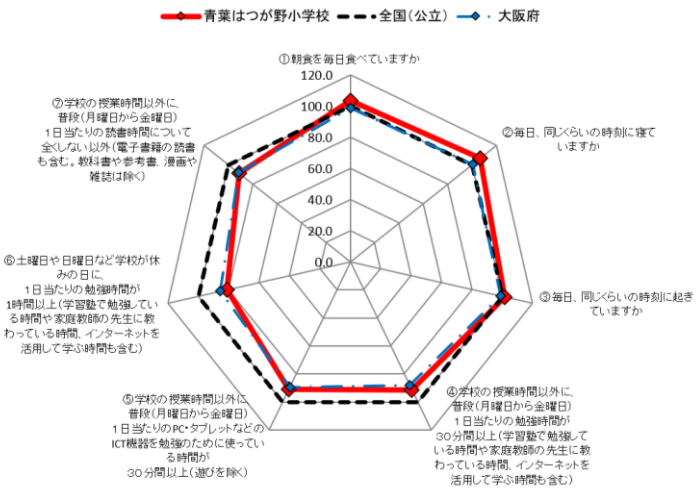
和泉市教育委員会では、子どもたちに「確かな学力」の育成を図るため、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善、ICT 機器の効果的な活用、府の学力向上事業の活用、外国語（英語）教育の充実、読書教育の推進、学校・家庭・地域との連携・協力等を重点項目として、各学校が策定した主体的・対話的で深い和泉の学び育成プランに基づいた取組みを支援しています。

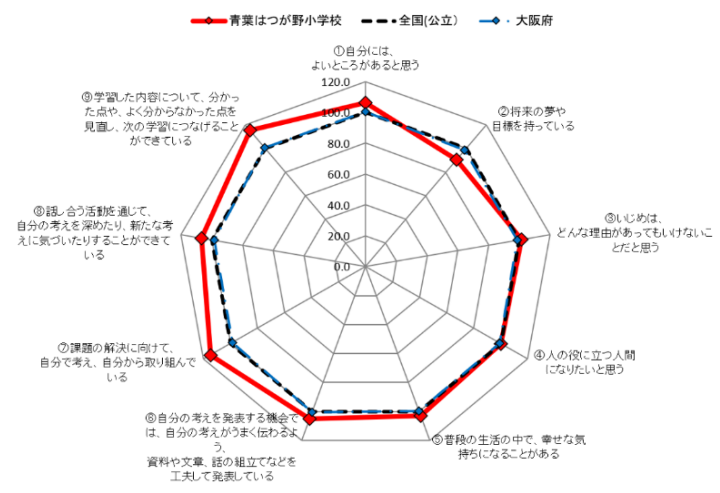
本校では、今回の調査結果を今後の教育活動の改善に生かし、学校教育目標「対話を通して自分も幸せ、みんなも幸せ」の実現に向け、授業において、目的に応じて情報を収集し、考えを整理して表現する活動や、見通しをもって課題解決に向かい、試行錯誤する学習の充実を図っています。また、子どもたちのことばの力を高めるため、言語活動を取り入れた授業づくりを進めるとともに、語彙カード活用、暗唱・視写、読書の充実にも取り組みます。基本的な生活習慣の定着などには、ご家庭との連携が不可欠です。今後とも、ご理解とご協力をお願いいたします。

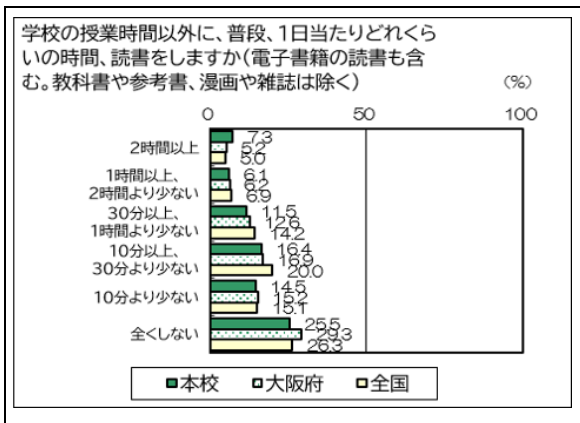
【学力状況調査にかかる結果概要】

多くの質問項目で、肯定的回答の割合が全国平均と同程度または上回りました。特に、「課題解決に向けて自ら取り組む」89.1%（全国77.6%）、「話し合いで考えを深める」91.5%（85.7%）、「学習内容を見直し次につなげる」90.3%（78.4%）は、いずれも全国平均を上回りました。これまで取り組んできた対話、単元マップ、振り返り活動等の成果の一端が表れたと考えられます。

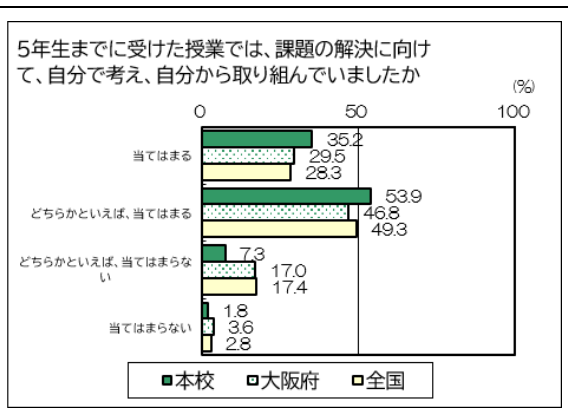
「家庭学習」、「生活習慣」、「自分に関すること」、「授業に関すること」等の項目について、児童生徒が肯定的な回答した割合を、全国（公立）を 100 として換算し、表示しています。



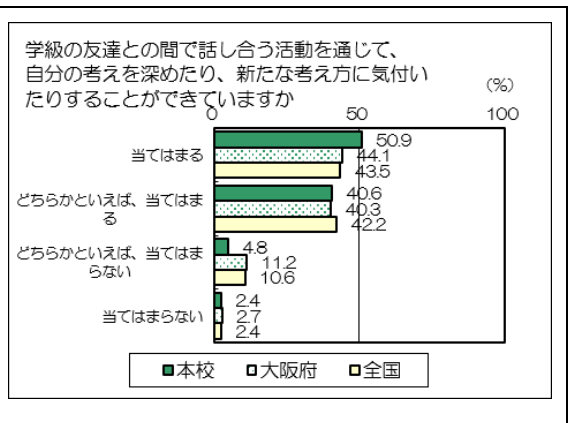




学校の授業時間以外（月曜日から金曜日）に、「全くしない」以外を選択した児童の割合は 55.8%で、全国平均 61.2%を 5.4 ポイント下回りました（本校、全国とも、無回答を除く）。読書は、語彙を豊かにし、美しい文章表現に触れる機会となるだけでなく、想像力や他者の思いを理解する力を育み、対話や表現の土台となります。今後は、「ことばのいずみ（語彙カード）」等の言語活動とも関連付けながら、学校で読書に親しむ機会を増やし、読書活動をさらに充実させます。



これからの社会を生きる子どもたちには、自ら問いを見いだし、課題解決に向けて試行錯誤しながら、自ら学び（課題解決に向かう過程）を調整する力が求められます。こうした力を育むため、今後も複数時間にわたる学習の見通しをもたせる「単元マップ」を活用し、言語活動やパフォーマンス課題を通して、子どもたちが自ら学びを調整する機会を充実させます。さらに、自らの学びを振り返り、言語化して次の取組みにつなげる学習のサイクルを大切にします。



「話し合いを通して自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができる」と回答した児童は 91.5%で、全国平均 85.7%を 5.8 ポイント上回りました。これまでの対話を重視した授業や「あたたかい聞き方・やさしい話し方」の取組みの成果がうかがえます。これからの社会では、多様な考えをもつ人と協働して課題解決に向かう力が求められます。今後も、「あたたかい聞き方・やさしい話し方」を基盤に、学校教育目標「対話を通して自分も幸せ、みんなも幸せ」の実現をめざします。